

# 教室だより

## 「適度な自信」

あらためまして、あけましておめでとうございます。さる1月4日、おかげさまで創業7周年を迎えることができました。何度も存続の危機がありましたが、8年目を迎えることができましたのは、皆様のお力添えの賜物でございます。誠にありがとうございます。

この7年で、学習指導要領は大きく変わり、単に知識の詰め込みとアウトプットだけでは、太刀打ちできなくなりました。また、自分から考えを表していかなければならないという試験問題も増えました。

指示待ちでもなく、自分勝手でもなく。自分と他者との考えをすりあわせながら、目の前の（勉強とは限らない）問題を解決すること。そのためには、日頃の学習に「適度な自信」を持つことが大切になると考えます。

## 「認める」「一歩ずつ」

しだいに学年も上がり、受験が近づき、「勉強しなきゃ」という気持ちが生まれてくる頃です。しかし、いたずらに学習量を増やすだけで成績が伸びるかと言えば、「ノー」であると考えます。

記述問題、発想の転換が求められる問題...そういった場面に直面したとき、「自信ないから」「やり方がわからないから」と尻込みすることもあるかと思います。そして、一通り教えられて、さあ自分でやってみて、と言われても...ということも、少なからずあるのではないのでしょうか？

どれだけ教えても、教わっても。  
その伸びを止めるものは、何でしょう？

私は、「適度な自信」が作られているのかどうかにかかっているのでは、と考えます。根拠のない自信ではなく、かといって不安に押しつぶされそうなものでもない「適度な自信」。



↑ 第2回英数オープン模試（中3）。今回は頭を使う問題でした。

それを作るには、「認める」（褒める、ではなく）、「一歩ずつ」が大切だと考えます。

### ①「認める」

自分も周りの人も、まずは「ここまではできた」「ここでできなかった」というような事実を先に認めることから始めるとよいでしょう。

「また計算ができなかった」「また英文が書けなかった」も、事実として認めるのはいいのですが、【だから勉強不足で、ダメなんだ】などの感情の判断は、一回しないでおきます。

「ここはできて、ここはできなかったか」「前回もできなかったか」でいったん止めておくのです。

### ②「一歩ずつ」

今こんな状態じゃ間に合わない！と焦りがちになりますが、今できること、少なくともそこだけは自信がある、ということをお大切にしておかないと、「またできなかった」「早くできるようにしなければ」と、焦りの気持ちで思考が固まります。マイナスの感情に引きずられて、できることもできなくなることがあります。焦らず次の1歩に集中を。

# 「塾生等心得」～当教室の願い～

当教室は、学校の先生たちが学生さんに指導にあたっての基本方針を定めている「学習指導要領」にいう、「主体的・対話的で深い学び」の先にある、「自分から必要とする学びにアクセスできるようにする」ことを、かなり重要なことと捉えています。

もちろん、いきなりその姿勢を作るということは難しい場合もあるでしょう。ですが、募集要項（昨年より説明会等で配布している8ページの資料）の最終ページ、講師紹介の欄にも「ただやらされているだけなら意味がない」と書いています。それは、「やれと言われたから」というだけの理由で、気持ちが前に向かわずに、勉強だけではなく、仕事なども含めて、プレッシャーのかか

る場面をやり過ごすことだけしか考えなくなると、「言われていないからやっていない」「言われたからやった」など、大事な場面で自分で判断して行動しなくなってしまうのです。

将来、そのときになってから考えればいいじゃん！と思うかもしれませんが、事実として、学校のテストでも自分の考えを書かせたり、順序立てて考えて解決を図るような設問が増えてきています。そこで面倒臭がってしまうと、テストの得点が高くても、評定が上がりにくくなることもあるのです。

このことから、少しずつでも、この教室で自分から学びに向き合える姿勢を作るための訓練ができるよう、「塾生等心得」を設定しています。

詳しいことは教室の公式サイトに掲載していますので、皆様ぜひご一読お願い致します！

## 1～3月期 募集要項

【輪西本校】毎週月・水・金

小中高 18:00～21:00の間で60分以上

各時間帯あと3～4名

【八丁平教室】※完全予約制

毎週火曜：第一町会館 木曜：八丁平町会館

火曜：18時台・19時台・20時台 各3名程度

木曜：募集締切間近です。

※特に、火曜の第一町会館は、積極受入中！

※授業開始前の不登校生や、時間に都合がつかない学生さんへの家庭教師対応・オンライン対応も行っております。お気軽にお問合せ下さい。

＊1月は無料体験相談会を実施しませんが、ご見学は承りますのでお気軽にご相談下さい。

[11k] 直線式  $y = ax + b$   
•  $a \Rightarrow$  「傾き」「変化の割合」、 $b \Rightarrow$  「切片」  
例えば、 $y = \frac{1}{2}x + 1$  だと。  
変化の割合 =  $\frac{y$ の増加量}{ $x$ の増加量}  
•  $\frac{1}{2} \Rightarrow$   $x$ が2つ増えれば、 $y$ が1つ増える。  
•  $\therefore$   $x$ の値が小さくなればなるほど、 $y$ の値も小さくなる。  
•  $x, y, a, b$  の4つ、わかっている情報。  
 $y = ax + b$  に代入する。  
傾き  $\frac{1}{2}$       傾き 2  
平行 = 傾き(変化の割合)が同じ、ということ。  
※用語は  $y = ax + b$  とおいてみるか、考えて解くとよいでしょう。

↑塾生限定、LINEでの時間外無料質問サービスも少しずつ浸透中。

## 【諸連絡】

- ①出席の把握と進み具合などの管理に支障をきたします。出席時間の変更や欠席の際は、必ず当教室までご連絡をお願い致します。
- ②上記「塾生等心得」のほか、教室運営方針、当教室利用規約は、当教室の運営の基本をなすとても大切なことがらに記載されています。今までにお読みいただいた方も、これからお読み頂く方も、1月15日現在で一部改訂を行っておりますので、お手数ですがぜひご一読のほどお願い致します。

## 【編集後記】

こちら公式サイトの記事にしているのですが、今年、8年目の共生舎のテーマは「気づきの促進と認容」としています。この7年間もそうなのですが、今までの経験を通し、人を育てるというときに「なるほど、まず今はそう考えたんだね」「あとから考えは変わるかもしれませんが、今はこのように考えています」などという現状の受け止めについての会話が、かなり少ないのでは？と感じてきています。たとえ「それぐらいできてもらわないと困る」ということがあっても、今その問題に直面している人にとっては「それぐらいでは済ましてほしくない」ということもあります。「ここはできるようになった」と喜んでいるところに「まだここがダメだから、できるまで勉強しなさい」と言うのか、「それを自信にして、苦手なところも一つずつ解決していきたいね」と言うのか。これはなにも親子や先生生徒に限らず、上司と部下などにもいえることではないでしょうか。社会人でも「何でも教えてくれるのは学校までだ」と言い捨てるのか、そういう厳しさが求められたとしても人格までは否定しないようにするのか。「あなたはそう考えたのだろうけど、こういう可能性については？」と気づきを与えるのか。人材育成にもいろいろな選択肢がありますよね。いずれにせよ、「またできなかったのは日頃の…」と断罪したり「もう嫌だ」となったり、感情だけのお話から、「次どうしようか」という建設的なお話の進め方を、心掛けたいものですね。